

承認 第2号議案 2025年度の事業計画案

特定図書館が利用申込者に、複写物をPDFデータで届ける公衆送信サービスが、今年2月20日から、国会図書館で始まった。都道府県立図書館の一部も、送信サービスを開始する公算大で、利用が本格化すると、大宅文庫の複写サービス利用に、深刻な影響を及ぼす可能性もある。

新年度は、事業収益の大きな柱である複写サービス収入の目減りをカバーする事業展開が必要になる。中心は、雑誌記事索引データベース(Web OYA-bunko)。これまで以上に充実させて、利用拡大を図っていく。

テレビ番組「関口宏の雑誌の記憶」への協力やSNSの本格活用、専修大学の「雑誌ジャーナリズム論講座」受託なども実施して、大宅文庫収蔵雑誌群資料力のファンを増やしていく。

＜雑誌記事索引データベースのパワーアップ＞

▼大宅文庫の心臓部ともいえる索引の採録は、24年が対象雑誌240誌で、年間6373冊だった。索引数は年間11万4600件で月平均9550件。21年からの4年間では、索引採録数はほとんど変わらず、月平均9500件前後となっている。

25年からは月1万件以上、年間12万件超の採録達成を目指す。対象年代も広げて、60年と70年代の古い雑誌やグラフ雑誌の索引採録に力を注ぐ。

▼Web 会員版利用者を増やすため、出版社、テレビ局などを対象の見学会や、お試しキャンペーンを複数回実施。パトロネージュ個人会員には、Web 会員版利用案内パンフを配布し、利用を呼び掛ける。

＜公立図書館版との利用拡大＞

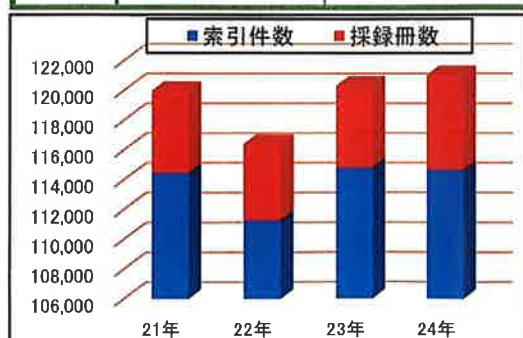
▼公立図書館版の利用契約館は、24年度(1月末現在)が28館。この4年間ではほとんど変動のない状態が続いている。新年度からは、毎年10館前後の増加を図り、3年間で利用契約館50館以上を目指す。

倍増目標実現のため、昨年に図書館流通センター(TRC。谷一文子社長)と販売代理店契約を結び、新たな利用図書館拡大に力を貸してもらう。

▼都内・首都圏の図書館職員を対象に、大宅文庫に招いて「Web OYA」の操作&検索を体験してもらう(年2回)。また全国各地で開催している、図書館対象のブックフェア(日本出版販売主催、TRC 共催)に文庫職員も参加、TRC 担当員と協力して、図書館関係者に「Web OYA」の操作や検索技術を披露して、導入を働きかける。

雑誌記事索引数

	索引件数	採録冊数
21年	114,447	5,505
22年	111,266	5,107
23年	114,790	5,510
24年	114,635	6,373



Web 契約 3 月末(24 年度は 1 月末)

	公立図書館版	教育機関版
21 年度	26 館	132 機関
22 年度	27 館	127 機関
23 年度	28 館	122 機関
24 年度	28 館	119 機関

▼教育機関版は、国内103機関、国外16機関の計119機関に使われている。国外機関への販売は、これまで紀伊国屋に単独委託していたが、新年度からは丸善雄松堂にも委託して、アメリカ以外でも利用契約機関が出現することに努める。

＜配送サービスの充実＞

複写物を自宅に届ける「宅配サービス」の利用向上を目指す。昨年8月から始めたクレジット精算利用の「レターパック」での郵送をスタートさせ、利用料金も低額設定となっていることで、「公衆送信」より“お得”であることもアピールしていく。

＜古い雑誌のデジタル保存推進＞

販売業者から寄贈を受けたドイツ製ブックスキャナーを活用して、貴重な古い雑誌のPDFデータ化を推進する。

＜本館と越生分館の施設点検＞

本館と越生分館の老朽化が進んでいる。本館は防水工事や壁面の亀裂、越生分館は壁面亀裂などを点検し、ひどい状態の場合は部分改修工事を実施する。

＜大宅文庫編集の書籍出版＞

▼「大宅壮一文庫 雑誌記事人物索引」の2024年版を刊行する。人物索引は、大宅文庫が情報提供して、日外アソシエーツ社が製作・販売を担当。これまでに2010年版から2023年版までの14年間分が刊行されている。24年版はこれまで年末だった刊行日程を、8月に繰り上げる。

▼「大宅壮一文庫・解体新書」(勉誠出版)を2021年に編集出版した雑誌文化研究会(有馬学代表)が、解体新書第2弾(タイトル未定)の6月刊行を予定している。

＜一般利用客の来館促進策＞

▼各種イベントの開催

・企画展＝公開講座、「雑誌『コバルト』と少女小説の世界」(仮題)を開催する。よみうりカルチャー主催で、読売新聞社内的大手町教室(収容定員90人)を会場にする。フリーライターの嵯峨景子さんと作家の新井素子さんが、「コバルトの世界」を語り合うトークショー。文庫が会場の「がんばれ雑誌」展は装いを変えて引き続き実施する。

▼地域住民サービス

・脳トレ講座＝高齢者を対象に、昔の出来事を思い出して脳の活性化を図る催し。世田谷区立経堂図書館、地区社会福祉協議会などと共催で実施する。

▼大学等で提携授業

・専修大学の「雑誌ジャーナリズム論講座」受託を、5年目の今年度も実施する。